

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 朝霞市立朝霞第五中学校



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成31年1月15日（火）

■ク ラ ス：2年1組（31名）、2年2組（32名）

■オリンピアン：千葉 真子 先生（陸上競技）【出場オリンピック／アトランタ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックを身近に感じられる授業にしたいと授業の目的を確認。
- ・ストレッチやアドバイスを行った後、走り方の確認とアドバイスを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・絆リレー
二人三脚の要領で5～7人の足を手ぬぐいで結んで走る競争。2班ずつ2チームに分かれて実施。
(1組＝全2回、2組＝全3回)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピアンだけのものではなく、皆の日常生活等、身近なところにもあるものだとして理解してもらえたのではないかと話し、座学の時間は運動の時間の取り組みを振り返りながら、3学期に達成したい目標を発表してもらったことを予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・運動の時間に紹介し、感じてもらったオリンピックバリューについてもう一度確認したいと話し、3つのオリンピックバリューの意味について説明。
- ・アトランタ大会の映像、実際に使用したゼッケン、10000m5位入賞の賞状を見せながら自己紹介。
- ・オリンピックシンボルは世界の団結を表しており、使用されている6色を使うことで世界のほとんどの国旗を描くことができることを説明する。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：3学期に班で達成したい目標について、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：球技大会で優勝することを目標とし、ベストを尽くすために体調管理に気を付ける(エクセレンス)、日々の生活から協力し、球技大会で優勝する。チームワークを高めるため仲間を思いやり行動する(フレンドシップ)、3年生を送る会で3年生に感謝の気持ちを伝える。そのためお互いに協力し、意見を出し合う(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは皆の日常生活の中にも見出すことができる。特に挫けそうな時や苦しい時、悩んだ時にはオリンピックバリューを思い出し、生きる力につなげていってほしい。
- ・ベストを尽くすことやチームワークを大切に等、選手がさまざまな思いを持って競技に取り組んでいることを想像することで、応援にも熱が入る。
- ・東京2020大会では観客やボランティア等、さまざまな立場でオリンピックに参加してほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：平成31年1月16日（水）

■ク ラ ス：2年3組（31名）、2年4組（31名）

■オリンピアン：内田 翔 先生（水泳／競泳）【出場オリンピック／北京大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、運動と座学の2時間を通じて恥ずかしながら物事に反応し、自分の感情や考え方をきちんと表現できる人間になってほしい。笑う時は大いに笑う、発表をする時はしっかりと自分の言葉で発言する等、何事にも一生懸命、全力で取り組んでほしいと生徒に呼び掛ける。
・ストレッチを行い、内田先生が取り入れていた陸上競技のトレーニングを行った後、じゃんけん勝ち抜けを実施。（3組＝全2回、4組＝全3回）

2. 準備体操



3. 主運動



・ボールつなぎリレー
チーム毎に一列に並び、順々にボールを受け渡していく競争。
内田先生が北京大会で4×200mのフリーリレーに7位入賞したことにちなみ、皆にも想いをつなぎリレーをしてほしいと伝えた後、2班ずつ3チームに分かれて実施(全4回)。

4. まとめ



・運動の時間に取り組んだ内容は全てオリンピックバリューにつながっていると説明し、座学の時間に詳しく学んでいくと予告。運動の時間は最後まで全力で頑張る皆の姿が素晴らしかったと生徒を改めて称え、クラス全員で拍手を送り合い、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・内田先生がオリンピックで学んだことを話し、皆にオリンピックへの理解を深めてほしいと授業の目的を確認。
- ・「オリンピックシンボルの意味を知っているか」と生徒に尋ね、「国が手を結んでいる」「5大陸」「世界のつながり」等の意見が挙がる。
- ・オリンピックシンボルは5大陸を表しており、使用されている6色を使うことで世界の大半の国旗を描くことができることを説明。
- ・夢を持っているかを生徒に尋ね、自分の夢を言葉にし、小さい目標を立てることで夢は実現に近づくと話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：日常生活をより充実したものにするためにオリンピックバリューをどう活かせばいいか考えてみよう。

発表：毎日笑うことで口角を上げ、ポジティブ思考になる、自分の意思を貫き通す(エクセレンス)、絵が上手くなるために、周りに教えてもらう、皆で笑う、人を好きになる(フレンドシップ)、挨拶をする、周りの人をしっかりと尊重する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・以前からファンであった歌手から「僕は歌で、君はスポーツで、日本を元気にしよう」と言われた。「人生に夢があるのではなく、夢が人生をつくる」という言葉を紹介し、夢を持つことで人生は変わると話す。
- ・自分の人生を変えられるのは自分だけであり、迷った時こそ下を向かず前を向いていこうと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

